

柏の葉診療所から見える果樹園の下草と芝生

柏の葉診療所は、果樹園と芝生で囲まれています。果樹園では下草が青々と茂り樹が作り出す木陰と共にピクニックにも最適です。こののどかな風景は、果樹の栽培法の一つで、草生法と言うシステムです。草生法(栽培)は、畑をイネ科、マメ科の多年草で覆って管理する方法です。年に数回草刈を行い、畑を覆い、更に数年に一度耕して草を鋤こみ、播種し直します。この栽培法は、土の中の有機物を増やし、土を柔らかくし、飛散を防止する等の効果が期待出来ます。



センター管理棟、売店(教室)周囲の芝生

センター管理棟、売店(教室)周囲には、西洋芝が播種されています。2004年5月20日に蒔いたものです。トールフェスク (*Festuca arundinacea* Schreb.; Rebel 2000)

ペレニアルライグラス (*Lolium perenne* L.; Appland)

チューイングフェスク (*Festuca rubra* L.; Jamestown)

の3品種を6:1:3の割合で混合してあります。根がしっかりはる8月頃には芝生の中に入れます。トールフェスクは、ヨーロッパ原産の芝草(牧草)で、草丈は50~80cm程度になります。この草は、成育が旺盛で、根も深く入り乾燥や暑さに強いのが特徴です。暑さに強いので温暖地での常緑芝草として重要になっています。

ペレニアルライグラスはアジア、北アフリカの温帯の原産です。草丈は40~60cm程度。成長が早く、丈夫ですが、暑さには余り強くなく、比較的短命です。芝草としては主に短期間での確実な芝生造成の役割を担っています。センターの芝生でも早期に芝生を作るための役割を担っています。

チューイングフェスクは、草丈は30~50cm程度ですが、踏みつけに強く、ペレニアルライグラス、トールフェスク等との混植により一般の芝生、競技場の芝草として用いられ、きめ細かな良質の芝生を作ります。

芝草の種類

芝草は、その草種の生育に適した地帯によって暖地型シバ、寒地型シバに大別されます。生育旺盛な季節を表現して夏シバ、冬シバなどとも呼ばれています。



暖地型シバは、生育適温24~35℃。秋地表の温度が10℃程度まで下がって来ると葉が枯れ始め、冬には休眠に入ります。春、気温10~15℃、地温10℃以上になると休眠から醒め、発芽し生育を始めます。耐寒性が弱いので北海道などの寒地では栽培に適していません。

寒地型シバは、生育適温10~24℃。暑さに弱いので暖地の夏には向いていません。日本は、国土が南北に長いので、多くの種類の芝草が利用されていますが、東北南部から中国地方にかけて年間を通して緑を保てる芝草はありません。

関東地方の住宅の庭で一番良く見られる芝草はコウライシバ(コウシュンシバ)(*Zoysia matrella*)です。他に

日本を代表する芝草としてノシバ(*Zoysia japonica*)があります。これらの芝草は、何れも暖地型シバです。北海道はこれらの芝草栽培には不適です。中国地方以北では冬枯れします。